

➤ 13日 木曜

ヨハネ



12:12 その翌日、祭りに来ていた大勢の群衆は、イエスがエルサレムに来られると聞いて、

12:13 なつめ椰子の枝を持って迎えに出て行き、こう叫んだ。「ホサナ。祝福あれ、主の御名によって来られる方に。イスラエルの王に。」

12:14 イエスはろばの子を見つけて、それに乗られた。次のように書かれているとおりである。

12:15 「恐れるな、娘シオン。見よ、あなたの王が来られる。ろばの子に乗って。」

12:16 これらのことは、初め弟子たちには分からなかった。しかし、イエスが栄光を受けられた後、これがイエスについて書かれていたことで、それを人々がイエスに行ったのだと、彼らは思い起こした。

12:17 さて、イエスがラザロを墓から呼び出して、死人の中からよみがえらせたときにイエスと一緒にいた群衆は、そのことを証しし続けていた。

12:18 群衆がイエスを出迎えたのは、イエスがこのしるしを行われたことを聞いたからであった。

12:19 それで、パリサイ人たちは互いに言った。「見てみなさい。何一つうまくいっていない。見なさい。世はこぞってあの人の後について行ってしまった。」

普通王がその権威と勝利を表すために、入城するときは決まって馬に乗っていました。ろばでは戦うことはできませんし、子ろばであればなおさらです。それは見方によってはこっけいにさえ映ったかもしれませんが。しかしそれこそがイエス様の偉大さを表

すものでした。主イエスは、馬による戦いという方法によってではなく、愛と平和によって勝利をもたらす方なのです。

それは十字架という尊い犠牲によってなされたものです。私たちも、敵でさえも愛する愛によって、また平和を作り出すことによって、この神さまから勝利をいただきましょう。また、必要ならば権威をもいただきましょう。それは神の権威による勝利ですから、揺るぎないものです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

